

# ジオスペース館だより

## ★ 今月の星もよう ★

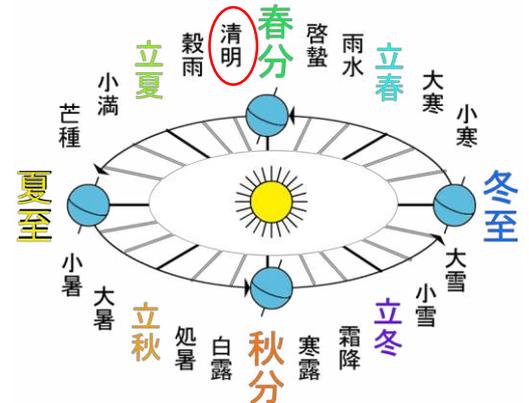
新年度がスタートし、すっかり春めいてきたこの季節、星空のようすも冬から春へと移り変わっています。4月中旬の夜8時頃の星空を見ると、冬の星座たちは、西の空に低く傾き、東から南にかけての空には、春の星座たちが登場しています。まず南に見えるのは、「かに座」と「しし座」、そして、全星座の中で一番大きな「うみへび座」です。また、北の空高くには「おおぐま座」が昇っています。「おおぐま」の背中から長いしっぽにかけて、ヒシャクのように並び、7つの星は《北斗七星》。北極星を探す目印として有名です。さて、「しし座」には、胸元に1等星レグルス、しっぽの先に2等星デネボラが輝いています。このデネボラと、「うしかい座」の1等星アルクトゥールス、「おとめ座」の1等星スピカを結んだ三角形を、《春の大三角》といい、「おおぐま」のしっぽの先から、アルクトゥールスを通り、スピカまで伸ばしたカーブを《春の大曲線》と呼んでいて、街なかでもよく見えます。春の星座を探すよい目印になりますから、ぜひ春の星座たちを探してみてください。



図はステラナビゲーター11の星図を元にして作成

## ★ 二十四節気・4月4日は《清明》

二十四節気は、春夏秋冬、1年の四季を24等分し、それぞれの「季節」を表す名称をつけた暦で、例えば、《春分》《秋分》なども二十四節気のひとつです。二十四節気は、その名称から、その時々季節感を感じることができるのですが、現代人の私たちにはピンとこない名称があるかもしれません。4月の前半には《清明》という日があります。今年の《清明》は4月4日で、《清明》とは、「清浄明潔」という言葉を略したもので、すべてのものが生き生きとして清らかに見える季節、という意味です。まさに、春の息吹を感じるような名称ですね。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

## ★ 月が木星と土星に接近!

日の出前の低い空を眺めると、右上に土星、左下に木星の順で並んでいます。周りには明るい星が少ないので、ひときわ目立っていますが、4月6日から8日にかけて、この2つの惑星のそばを、月が通りすぎていきます。明るい惑星たちを目印に、日ごとに大きく位置と形を変える月のようすを、観察してみましょう。



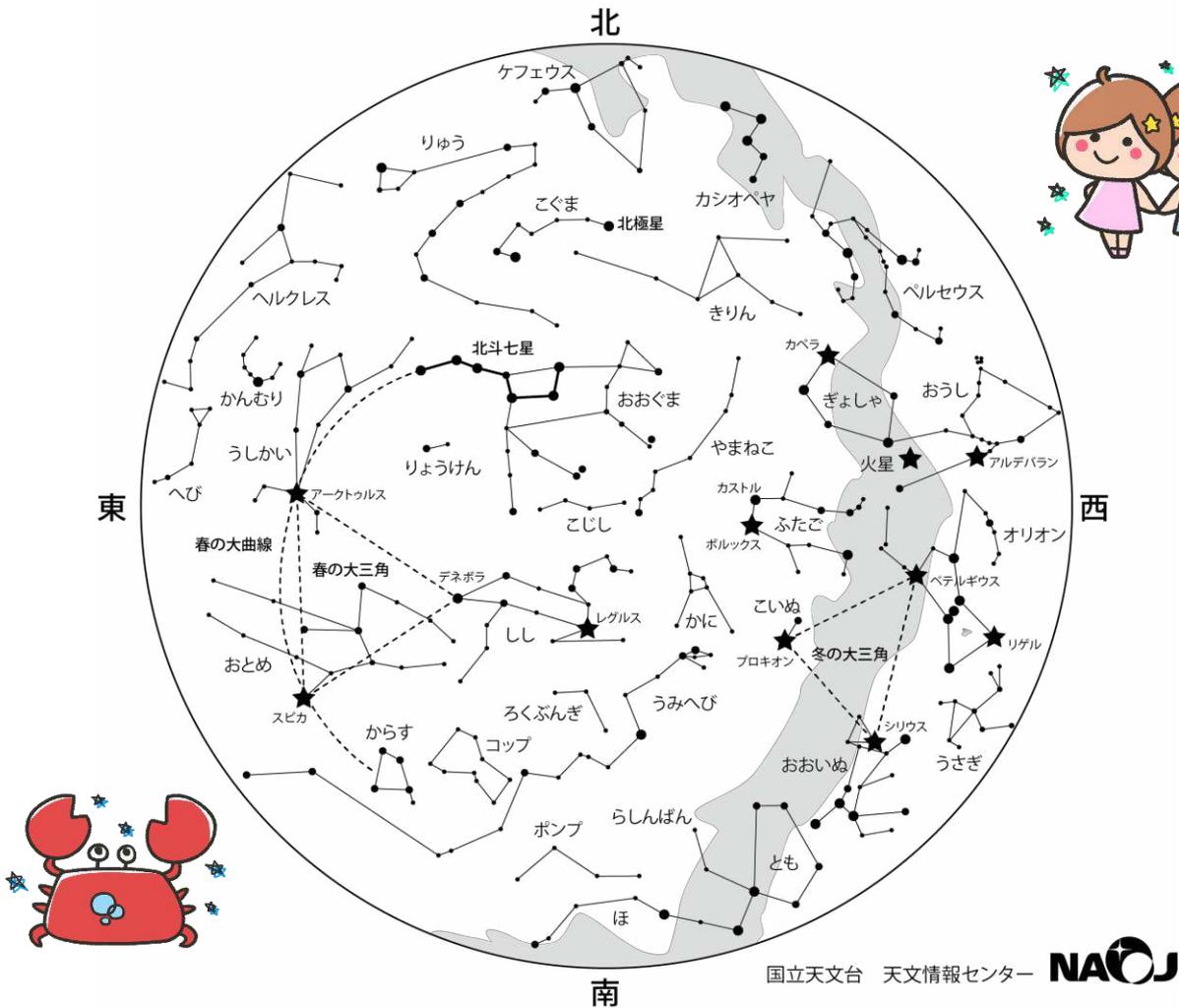
月は大きさを強調しています

★ 4月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 4/5(月)、12(月)、19(月)、21(水)、26(月)、30(金)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

# 4月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター NAOJ

## ★ 4月上旬の主な天文現象

4日(日) ● かげん 下弦、 せいめい たいようこうけい ど 清明 (太陽黄経15度) 6日(火) 木星のガリレオ衛星相互食 (エウロパがガニメデの前を)	7日(水) 月が木星に接近 12日(月) ● 新月 とうか せきぎん 通過、月が土星に接近
--	--

## ★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 4/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 4月4日(日) [見やすさ◎]	19:14	北北西	~	19:19	東
◇ 4月5日(月) [見やすさ○]	20:04	西北西	~	20:07	西南西
◇ 4月6日(火) [見やすさ◎]	19:16	北西	~	19:22	南南東
◇ 4月8日(木) [見やすさ○]	19:19	西	~	19:24	南

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。  
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。